

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
ビジネス倫理	社会の信頼を得る 企業となるために	大田 博樹	2 年次前期
講義の目的	企業の社会的影響力の増加に伴って、企業は経営活動における高い倫理性が求められるようになっていきます。企業が高い倫理性を保つためには、経営者はもちろん、経営活動に関わる一人一人が、個々の現場において倫理的に正しい判断を行うことが求められます。そこで本講義では、経営倫理の基本的な理論を学ぶとともに、事例研究を通じて企業が現在直面している倫理的課題についても学び、将来、自らの職務行為における倫理的な振る舞いについて思考する際の基礎を構築することを目的とします。		
到達目標	本講義では、学生が①企業倫理の基礎的な理論・用語を知り、②その内容を自分の言葉で説明できるようになること。そして、③実際の企業活動を観察し、企業活動における倫理的な課題について自ら考察出来るようになること。さらに④社会人となった際に、自らの職務行為における倫理的な振る舞いについて思考するための基礎的な知識を身につけることを目指します。		
講義内容	現代社会において、企業活動上の企業倫理（ビジネス・エシックス）の重要性は、企業を取り巻く様々なステークホルダーが認めるところです。しかし、「なぜ企業は倫理的であるべきか?」、「倫理的である企業とは具体的にはどのような企業か?」「企業倫理は企業価値の向上にどのように結びつくのか?」等の企業倫理に関する論点や問題を事例を通じて考察していきます。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション（講義の概要、成績の評価の説明）	
	第2講	コンプライアンスとは（大塚製薬工場）	
	第3講	CSRと企業力（協和発酵キリン）	
	第4講	サントリーのコンプライアンス活動事例（サントリーホールディングス）	
	第5講	不祥事の発生と予防の基本的考え方（エイワイファーマ）	
	第6講	人事労務に活かすコンプライアンス（持田製薬）	
	第7講	身近なコンプライアンス問題（キッコーマン）	
	第8講	旅行ビジネスとCSR（荏原エージェンシー）	
	第9講	ハラスメントの現状と課題（協和メディックス）	
	第10講	企業メセナの展開と課題（ブリヂストン美術館）	
	第11講	企業不祥事とビジネス倫理の変遷（慶應義塾大学非常勤講師）	
	第12講	アイネットの内部監査の取組み（アイネット）	
	第13講	女性活躍の現状と課題（塩原公認会計士事務所）	
	第14講	コンプライアンスをいかに浸透させるか（大塚製薬）	
	第15講	まとめ	
方法指導	講義は、座学を中心に行いますが、必要に応じて映像教材の視聴やグループディスカッション等も行う予定です。また、毎回の講師として実務家を中心とした外部講師を招聘し、企業の実際の現場で起きている課題について深い見識を得られるようにします。		
授業外学習	事前学習として、日常的に新聞等により企業不祥事やCSRに関する情報を集めてください。事後学習としては、講義で得た知識をもとに興味のある企業について調べるなどして、ビジネス倫理に関する知識をさらに深めることが大切です。		
成績評価方法	平常点（リアクティブレポート：各講義において、講義の要旨、印象に残った言葉とその理由をまとめるミニレポートを作成してもらい、毎回の講義終了時に回収します。）80% 本試験（レポート：講義全体を通じて学習したことを基に、ビジネス倫理の意義についてまとめるレポートを最終講義日に提出してください。）20%		
テキスト	指定テキストはありません。必要に応じて資料を配布します。		
書籍参考	各講師が必要に応じて紹介します。		
事項記			